

～70%の時期までは職業学科卒業生の専門性は一般に高かったが、進学率が90%に達した後は、その専門性の評価は下がっている。時期を同じくして大学進学指向も強まってきたため、1970年以降、ながらく全高校生の4割を占めていた職業学科在籍者数が漸減するなど、高等学校職業学科の位置づけは動揺している。他方、高校の職業教育の強化を望む声も根強いので、高校職業教育の位置づけは、高校の普通科における産業教育の拡充と相まって、現代の中等教育改革の重要な課題の一つとなっている。▶▶▶実業教育:職業教育

佐々木享

### さんぎょうきょういく 産業教育

広義には農、工、商、水産など各産業部門の職業につく準備をする教育をいい、職業教育あるいは第2次大戦までの実業教育の内容がほぼこれに相当する。\*職業訓練や企業内で行われる教育訓練も広義の産業教育にふくまれる。しかし狭義には、産業教育振興法の制定(1951)後は、中学校の技術・家庭科(1958年までは職業・家庭科)、高等学校の工業、農業、商業、水産、家庭、衛生看護の各学科(これらを一括して職業学科という)の教育を総称することが多い。普通教育の学校系統とは別個の学校とされていた\*実業学校は、第2次大戦後の学制改革で解消され、狭義の産業教育は、いわゆる単線型の学校体系のなかに位置づけられた。中学校の産業教育は、普通教育の一環として、主として工業上の、あるいは家庭経営に関する知識、技能の基礎を教授する技術・家庭科で行われている。この教科は、教育と実生活とを結びつけるうえで重要な役割をになっているが、進学準備教育の圧力のなかで軽視されがちである、教育内容が男女別である、実習をふくむのに半学級編成(1クラスの生徒数がたとえば20名を超えるときには分割する方式)が保証されていない、などの問題をかかえている。高等学校の産業教育は、職業学科の専門教育として位置づけられている。これらの学科の教育課程の構成は、おおむね普通科目55、実習をふくむ専門科目45となっていたが、しだいに前者の比重が大きくなる傾向にある。また、高校進学率が60